2 Ep-14

日本とタイの若者の理想的身体像の調査

東京家政学院家政　○川上　梅
大妻女大家政　松山容子　笹本信子

［目的］一般に日本女性は現実よりも太っていると自己評価する者が多く，また日本の女子学生はアメリカの学生より自己の体型に対する満足度が低いといわれている．体型に対する満足・不満足度という自己概念が自分の行動に大きな影響を与えることを考えれば，理想的身体像に自己の体型の外観を近づけ，満足度を高めるという被服の役割は大きい．理想的身体像と現実的身体像との開きには，個人差ばかりでなく異なる社会，文化の中で培われた国民性の相違が関与すると思われる．本研究では，同じアジア人種である日本人とタイ人を対象として，理想的身体像と自己概念の違いを調べ，また，理想的身体像と現実的身体像とがどう関連するかを検討した．

［方法］調査対象：日本人，タイ人それぞれ約300名であり，高校生または大学生である．調査時期：日本およびタイいずれも1992年．調査方法：質問紙調査により，自己の理想的身体像と比較して自己の身長，体重，胸囲，胴囲，顔，脚を４段階で評価させた．得られた評価結果を現実の身長，体重，Rohrer示数と比較し，考察を加えた．

［主な結果］自己の体型を理想的身体像であると評価した人数の割合は，身長・顔を除いて，タイ男子，タイ女子，日本男子，日本女子の順に低くなり，体型について日本人は男女ともに厳しい評価を下している．また，日本人の身長を除くすべての項目で，両国ともに，男子より女子の方が厳しい評価をしていることが明らかになった．理想通りと答えた人数の割合が少ない項目は日本男子の身長，日本女子の体重（最低値12%）・胸囲・胴囲・脚である．タイ男子・女子では脚に対する評価が高かった．